



好学愛知 自律敬愛 質実剛健

鶴丸イ言

鹿児島県立鶴丸高等学校

〒890-8502 鹿児島市薬師二丁目1番1号

TEL 099-251-7387 FAX 099-255-3433

http://www.edu.pref.kagoshima.jp/sh/Tsurumaru/top.html

「てげてげ」でいこう

教頭 濱島 幸治

言つときますが、某放送局の番宣ではありません。鹿児島の方言である、「てげ」、「てげてげ」の話です。

私はこの言葉が大好きです。もちろんプラス思考で使うときの言葉としてです。いい具合に力の抜けた言葉ではないでしょうか。何ともいえない脱力感がこの言葉にあると私は感じています。

私は本校に赴任して七年目になります。今年度から教頭ですが、今年の三月までは数学科の教諭、テニス部の顧問、クラスの担任として勤務していました。

その頃感じていたことです。テニス部の生徒へのアドバイスに、「力を抜け」とよく話していました。ボールを打つという動作は、単にラケットを握った手や腕の力で打つわけではありません。足↓腰↓背中↓肩↓腕↓手↓ラケットと運動連鎖でボールを打ちます。この連鎖をいかにスムーズに効率よく行うかが大切で、この連鎖が打ったボールのスピードや回転に影響します。一部でも極度の緊張状態（力みすぎている状態）にあると連鎖がうまくいかないことは想像できますよね。先日、テレビのスポーツコーナーで巨人軍の菅野投手のインタビューが流れていました。彼の口から出た言葉が「九割の力で投げてます。」でした。やはり全力ではないんですね。

学習も同じではないでしょうか。「なぜ学ぶのですか」の問いに十人十色の答えが返ってくると思います。完璧にできるのであれば学ぶ必要ありませんよね。「できない」からこそ「分からない」からこそ学んでいるのですよね。つまり、「できない」、「分からない」ことを明らかにすることが最初の目的ではないでしょうか。このところで、「できないければ」と力みすぎてはいけないと思います。

数年間、ほぼ毎朝七時三十分頃から演習開始の時間まで、職員室前の赤色シートのベンチに座って、話をしながら教室に入っていく女子生徒を担任したことがあります。頑張り過ぎる性格だったので、力を抜いてみようかと話をしたものでした。ただ、力を抜くことができないから悩んでいたのは事実なので、「力を抜くことを意識するだけでなく、いいよ」

今年も一年生に対してストレスマネジメントの講習が行われました。二・三年生の皆さん覚えてますか、力の抜き方。手の抜き方ではないですよ。自分の持っている力を、常に100%出すことができる人っていないですね。でも、「出さなきゃ」と思っている鶴丸生は多いのではないかと感じています。本当に諸君は、まじめで何事にも一生懸命に取り組んで、完璧を追い求めていますよね。でもそれってキツイよね。そこで「てげてげ」なんです。適当、そこそこ良いのです。「完璧・完全」でなくても「良い加減」でいいんです。



(上) 松藤君による演説の様子
(下) 生徒から積極的な意見が出されました

新しい鶴丸をつくる

生徒会長選挙・生徒総会

五月八日、平成二十九年前期生徒会長選挙、及び生徒総会が行われました。生徒総会に先立って行われた立会演説会では、候補者の松藤義尚君(22R)が学校と生徒会活動に対する熱い思いを語り、その後行われた信任投票の選挙にて過半数を得、新生徒会長への就任が決定しました。

生徒総会では、活動・決算報告、予算・選挙規則改正の審議に引き続き、第四号議案で「生徒会と所属感」について話し合いが行われました。「『自分は組織の一員である』と強く感じるのどのようなときか」と現在の生徒会組織、活動の中で所属感を感じられているか、「これらを踏まえて、今後の生徒会組織、活動はどのようにすべきか」というテーマに対して、二・三年生を中心に活発な意見交換が行われ、一年生は初めて経験する鶴丸の生徒総会に大いに刺激を受けていました。



本の世界を語り合う

SLHR 集団読書

五月の中旬から下旬にかけて、今年度も恒例の集団読書が行われました。課題図書である、三年『ふしぎなキリスト教』(橋爪大三郎・大澤真幸/講談社現代新書)、二年『ピルマの竖琴』(竹山道雄・新潮文庫)、一年『舟を編む』(三浦しをん・光文社文庫)について、各学年活発な議論が行われました。

高校生になり、母が辞書を買ってきた。今までは6歳上の姉が中学入学を機に買った物を使っていた。見た目は古いけど、まだ使える。そう思っていたが、この本を読んだらそれは少し違うと気がついた。辞書は、世間の言葉の後追いかできない。日々変化していく言葉と向き合い、今に最もふさわしい瞬間を切り取って残すのはなんて大変なのだろう。

「完成のないもの」とは常に変化し続けたり、求め続ければ限界のないものだと思ふ。本作ではそれが「辞書」だったから、実際に私の生活の中にも探せばいくつも見つけられる。例えば勉強。やってもやっても、できるような気がするというよりも、い所が見つかると。テストには満点があっても、自分の理解に十分自信がもてるようにはなれないだろう。しかし完成のないものは自分の意識しだいでいくらでも完成に近づけることができる。この点において、私は玄武書房辞書編纂部を見習いたい。彼らは辞書の理想像を共有し、それぞれの立場でできることを見つけ全力を注いでいる。みなそれぞれに不器用さはあるが、ひとりとして欠けてはならない存在だと感じた。何より、人間味があふれ出ていて温かさを感じた。

ふと、買ったばかりの辞書に目を向ける。この辞書を作ったのはどんな人達だろうか。どのくらいの時間をかけ、どのくらいの熱を持って取り組んだのだろうか。この本を読んで、辞書に対する考え方や見方が変わったのはもちろんだが、大きな目標をせんと追うことの大切さを学んだ。たとえどんなに時間がかかっても、一つ一つ丁寧に着実に前進することは、大きな目標の達成につながるはずだ。焦らず、どっしりと構える、そんな広くて深く強い心をもった人になりたい。

天災に備えて

避難訓練

五月十九日、地震を想定した避難訓練が実施されました。生徒・職員の冷静かつ真剣な行動に、講師としてお越しいただいた鹿児島消防署西本署の隊長さんからはお褒めの言葉をいただくことができました。また、全体の訓練後には在校時自衛防衛隊の任務確認があり、体育館では消火器の使用方法についての講話や、消火栓を用いた訓練も行われました。



1年生の集団読書の様子。同じテキストを読んでも、クラスメイトが持つ異なる視点に気づかされます。

6月の行事予定

日	月	内容	食堂	定期	学	期	教	育	時	間	相	談	調	査
1	木		○											
2	金		○											
3	土		X											
4	日		X											
5	月	中間考査(1日目)	○											
6	火	中間考査(2日目)	○											
7	水	中間考査(3日目) 部活動生集会	○											
8	木	4,5,6,7限の授業 クラスマッチ(午後)	○											
9	金	クラスマッチ(終日)	○											
10	土		X											
11	日	英検第1回一次試験	X											
12	月	学年朝会 保健講話 学校安全の日 45分授業	○											
13	火		○											
14	水		○											
15	木		○											
16	金		○											
17	土	悠学講座① 3年小論文模試	X											
18	日		X											
19	月	全校朝会 3年進路講演会 45分授業	○											
20	火		○											
21	水		○											
22	木		○											
23	金	45分7限授業	○											
24	土		X											
25	日		X											
26	月	学年朝会 1・2年実力考査時間割発表	○											
27	火	中掃除	○											
28	水		○											
29	木	耳鼻科検診(1年)	○											
30	金		○											

修学旅行前健康相談